

第4回日韓フォーラムの見どころについて

▽2019・4・16 実行委員・植村隆

みなさん、こんにちは。韓国カトリック大客員教授の植村隆（元朝日新聞ソウル特派員、週刊金曜日発行人）です。『第4回ジャーナリストを目指す日韓学生フォーラム@韓国』の実行委員で、現地責任者を勤めます。今回のフォーラムのみどころについて、ご説明したいと思います。

今回のフォーラムは『韓国のデモクラシーを学ぶ』がテーマです。韓国では、市民や学生たちが独裁政権と闘い、自らの手で勝ち取ったデモクラシーの歴史があります。その歴史を現場で学ぼうという企画です。特に今回は、1980年の光州事件（光州民主化抗争）の現場や1987年の民主化抗争の発火点となったソウル大生朴鍾哲（パク・ジョンチョル）君水拷問事件の現場・南営洞（ナムヨンドン）対共分室などを訪問します。現場を見ることで、韓国民主化の歴史への理解が深まると思います。それが日韓相互理解を深める大きなカギになるでしょう。

光州事件の追悼行事では、文在寅大統領が演説をする可能性があります。生ムン・ジェインを見られるチャンスです。双眼鏡や望遠レンズをぜひ持参してください。光州事件の現場だった錦南路（クムナムロ）を当時、全南大生で、事件で100日以上拘束されたキム・ヤンレさん（518記念財団理事）の案内で歩きます。

1987年の水拷問拷問の現場は、殺されたソウル大生の同級生だったキム・ハッキュさん（人権都市研究所理事長）が案内してくれます。

元 KCIA の建物だったソウル国際ユース・ホテルの会議室で、韓国の民主化運動のリーダーだった李富栄（イ・ブヨン）さん（元東亜日報記者、投獄5回）の特別講義があります。李富栄さんは、水拷問事件が韓国の警察権力の組織的な犯罪だったことを獄中で知り、その極秘情報を韓国社会に暴露したエピソードでも知られます。その「獄中スクープ」体験も話してくれます。

また、言論民主化運動で生まれた韓国のリベラルな新聞『ハンギョレ』の見学もします。編集会議も見せてもらいます。案内人は、元東京特派員の吉倫亨（キル・ユンヒョン）・国際部記者、同紙の創刊副社長の任在慶（イム・ジェギョン）さんがハンギョレの歴史を語ってくれます。

短期間で、これだけの密度の濃いプログラムを実施できるのは、日韓フォーラムならではです。ぜひ、ご参加ください。そして、ジャーナリストを目指す韓国の学生たちとの友情も深めてください。

なお、参加に先立って、日本でも公開された下記の映画2本をごらんになることをお勧めします。現場での理解が深まります。

★1987年の韓国民主化闘争を描いた韓国映画『1987、ある闘いの真実』
<https://movie.walkerplus.com/mv65152/>

★1980年の光州事件を描いた韓国映画
<https://movie.walkerplus.com/mv64110/>

この映画の関連で、以下の明治学院大学・徐正敏教授の文章も参考になります。
<https://webronza.asahi.com/politics/articles/2018092000001.html?page=1>

以上